

平成30年度 中間決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区 分	H29年度 上期実績 A	H30年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H29年度 通期実績	H30年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
営業収益	5,000	12,071	7,071	141.4%	10,564	20,811
高速道路事業	4,631	11,711	7,079	152.8%	9,755	19,952
(料金収入)	4,370	4,432	62	1.4%	8,376	8,543
(道路資産完成高)	225	7,246	7,021	3119.0%	1,293	11,322
(その他の営業収益)	36	32	△3	△9.6%	85	87
関連事業	394	389	△4	△1.2%	873	939
(SA・PA事業)	228	223	△5	△2.2%	416	417
(受託・その他の事業)	165	166	0	0.1%	456	521
セグメント間取引の消去	△26	△30	△3	—	△64	△80
営業費用	4,699	11,778	7,079	150.6%	10,566	20,764
高速道路事業	4,354	11,444	7,089	162.8%	9,783	19,933
(道路資産賃借料)	3,052	3,097	45	1.5%	6,018	6,148
(道路資産完成原価)	225	7,246	7,021	3119.0%	1,293	11,322
(管理費用等)	1,077	1,100	22	2.1%	2,471	2,462
関連事業	371	365	△6	△1.7%	847	912
(SA・PA事業)	204	201	△2	△1.4%	392	390
(受託・その他の事業)	167	163	△3	△2.1%	454	522
セグメント間取引の消去	△26	△30	△4	—	△64	△80
営業利益（△損失）	300	293	△7	△2.5%	△1	46
高速道路事業	277	267	△9	△3.5%	△27	19
関連事業	23	24	1	7.6%	25	26
経常利益	318	309	△9	△2.9%	33	73
親会社株主に帰属する中間純利益	411	225	△186	△45.3%	208	47

※) H30年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

(注)当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	SA・PA事業 高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業 駐車場事業、トラクターミナル事業等

2. 連結営業概況

(1) 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前年度比7,079億円増の1兆1,711億円となりました。
このうち、料金収入については、東京外環自動車道三郷南 IC～高谷^{こうや}JCT の新規開通の効果による交通量増加等^{※1}により、前年度比62億円増の4,432億円となりました。
道路資産完成高については、東京外環自動車道の開通などにより前年度比7,021億円増の7,246億円となりました。
※1 通行台数 298万台/日(前年度比0.9%増)
- 高速道路事業の営業費用は、前年度比7,089億円増の1兆1,444億円となりました。
営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、前年度比45億円増の3,097億円となりました。
道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。
また、管理費用等については、東京外環自動車道の開通による増などにより、前年度比22億円増の1,100億円となりました。
- この結果、高速道路事業営業利益は、267億円(前年度は277億円の営業利益)となりました。
- 当社においては、高速道路の料金収入は下期に比べて上期のほうが多く、管理費用は下期のほうが冬期の雪氷対策費用などにより、上期に比べて多くなる傾向があります。
このため、上期の営業利益は267億円ですが、通期では19億円の営業利益を見込んでいます。

■平成30年度高速道路事業 営業損益（連結）

単位：億円（単位未満切捨て）

区 分	上期実績 ①	下期見込 ②	通期見込 ①+②	
営業収益	11,711	8,240	19,952	
（うち料金収入）	4,432	4,110	8,543	上期 > 下期
営業費用	11,444	8,489	19,933	
（うち管理費用等）	1,100	1,362	2,462	上期 < 下期
営業利益	267	△ 248	19	

(2) 関連事業の営業状況

- SA・PAの飲食・物販店舗売上高は、5月の大型連休期間中の日並びや天候不順の影響のため554億円となり、1.2%減少しました。このためSA・PA事業営業収益は前年度比5億円減の223億円となりました。また、営業費用は、前年度比2億円減の201億円となりました。
- この結果、SA・PA事業営業利益は前年度比2億円減の22億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、グループ会社の外販利益の増加などにより、前期比1億円増の24億円となりました。

(3) 中間純利益

- 親会社株主に帰属する中間純利益は前年比186億円減となる225億円となりました。これは、前年度は建設関係法人厚生年金基金について、代行部分の過去分返上を行ったため特別利益を計上していたことによるものです。

【参考】 個別決算概要(経営成績)

(単位: 億円 (単位未満切捨て))

区 分	H29年度 上期実績 A	H30年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H29年度 通期実績	H30年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
営業収益	4,817	11,872	7,055	146.4%	10,228	20,464
高速道路事業	4,598	11,681	7,083	154.0%	9,679	19,874
(料金収入)	4,370	4,433	62	1.4%	8,376	8,543
(道路資産完成高)	225	7,246	7,021	3119.0%	1,293	11,322
(その他の売上高)	2	2	0	3.5%	9	9
関連事業	219	191	△28	△12.8%	548	589
(SA・PA事業)	58	57	△0	△0.5%	106	108
(受託・その他の事業)	161	133	△27	△17.2%	441	480
営業費用	4,517	11,592	7,075	156.6%	10,287	20,464
高速道路事業	4,310	11,412	7,101	164.7%	9,752	19,886
(道路資産賃借料)	3,052	3,097	45	1.5%	6,018	6,148
(道路資産完成原価)	225	7,246	7,021	3119.0%	1,293	11,322
(管理費用等)	1,033	1,068	34	3.3%	2,441	2,415
関連事業	206	180	△26	△12.8%	534	578
(SA・PA事業)	43	44	1	2.5%	92	93
(受託・その他の事業)	163	135	△27	△16.9%	442	485
営業利益(△損失)	300	280	△19	△6.6%	△59	△0
高速道路事業	287	269	△18	△6.3%	△72	△11
関連事業	12	10	△1	△13.2%	13	10
経常利益	368	314	△53	△14.5%	13	36
中間純利益	463	236	△226	△48.9%	212	29

※) H30年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ トピックス(平成 30 年度上期の主な取り組み)

【高速道路事業】

■ 新規開通(ネットワークの整備)

東京外かく環状道路(東京外環自動車道) 三郷南IC~高谷^{こうや}JCT間(15.5km)が平成30年6月2日に、昭和44年の都市計画決定以来半世紀を要した大事業でありましたが、地元の皆様のご協力のもと無事開通することができました。この開通により東関東道・常磐道・東北道・関越道4つの放射道路が接続し千葉の湾岸エリアから関東各地へ都心を通ることなくアクセスすることが可能となりました。



開 通 式



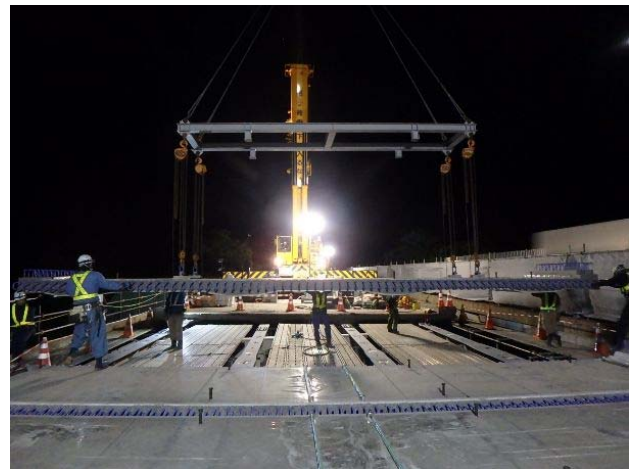
高谷JCT

■ 高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。平成30年度上半期においては、道央自動車道 恵庭IC~北広島IC(上り線)、東北自動車道 築館IC~若柳^{わかやなぎ}金成^{かななり}IC(上り線)など7橋の床版取替工事などが完了しました。



道央道 ^{しまつがわ} 島松川橋床版取替工事



東北道 ^{はさまがわ} 迫川橋床版取替工事

■渋滞対策(付加車線の整備)

関越自動車道花園 IC 付近で進めてきた付加車線が完成し、平成30年8月から運用を開始しました。これにより花園 IC から流入する車がスムーズに本線合流できるようになりました。



運用前 (平成 27 年 3 月撮影)



運用後 (平成 30 年 9 月撮影)

【関連事業】

■SA・PA商業施設のオープン

関越自動車道 赤城高原SA(上り線)の商業施設を、地域性・旅の楽しみを凝縮した旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」として、平成 30 年 4 月 24 日にリニューアルオープンしました。

また、北関東自動車道 ^{おおたごうど}太田強戸PA(集約型)の新設に合わせて、平成 30 年 7 月 28 日に商業施設及びガスステーションがオープンし、150km を超えるガスステーションの空白区間が解消するなど、お客さまサービス、利便性の向上に努めました。



関越道 赤城高原SA(上り線)



北関東道 太田強戸PA(集約型)